

浦田理恵選手 (TOKYO2020パラ銅メダリスト) 講演会

-逆境の一步先に ~小さな積み重ねと感謝の習慣-

12月21日(火)午後 あすか創建(株)本社にて、TOKYO2020パラリンピックの『ゴールボール』銅メダリストである浦田理恵選手(総合メディカル(株)/所属:シーズアスリート)をお迎えして、メンタルヘルズ講演会が開催された。各地域拠点向けにはTeamsによるリモート開催を実施し、約70名の方が講演に参加した。

浦田選手は熊本県生まれ。教師を目指していた20歳の頃に視力が低下。26歳で国立福岡視力障害センターに入所し、鍼灸などを学んでいた頃、ゴールボールに出会い競技をスタート。2008北京、2012ロンドン、2016リオデジャネイロ、2020東京と4大会のパラリンピックに連続出場。ロンドンでは金、東京では銅メダルを獲得した。

講演では2020東京パラリンピックまでのアスリートとしてのご活躍の経緯、そしてご自身の逆境を力に変えてきた生き方なども含めてご講演いただいた。目が見えないという障がいを乗り越えることができたのは、まずは自分が行動するというその最初の一步を踏み出す「勇気」と、見守ってくれる家族や友人など周囲の方々の存在に気づき、それに報いるために自分が出来ることをやるという「感謝」の気持ち、だという。そしてこの二つが今の自分の核をつくり自分を変えた、という。

「パラスポーツは、競技者(コート)とそれを支える方々(ベンチ)のチームプレイ。組織の中での助け合いであり、共生社会に繋がる。そして勇気と感謝のスパイラルは日本社会をもっと住みやすい環境に変えると思う」と浦田選手。競技だけではなく仕事や生き方に詰まったときに、その考え方の手本ともなる貴重な教をいただいた。



TOKYO2020 銅メダル



ゴールボールで視覚障害を体験する館山所長



本社参加者と記念撮影



浅野社長・館山所長と